

通算第209号

防衛研究所ニュース 2016年5月号

“NIDS NEWS”



防衛研究所企画部企画調整課 (03-3713-5912)

・・・・・・2016年4月の主な出来事・・・・・・

《大学院連携プログラム（修士課程）の創設》



防衛研究所・政策研究大学院大学

安全保障に係る大学院連携プログラム（修士課程）の創設に関する合意書 調印式

平成28年4月7日

4月7日、防衛研究所の鈴木所長と国立大学法人政策研究大学院大学（GRIPS）の白石隆学長は、安全保障に係る大学院連携プログラムの創設について合意しました。本プログラムは「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱」において、「知的基盤の強化」が謳われていることに鑑み、より幅広い政策的視野を持った将来の高級幹部を育成する目的のもと、防衛研究所第64期一般課程から設けられる修士課程（戦略研究プログラム）です。本プログラムを選択する一般課程研修員は、一般課程を履修するとともに、GRIPSの学生としても、英語で実施されるGRIPSの講義を受け、最終的にポリシーペーパー（修士論文）を執筆することが求められます。戦略研究プログラムを修了した研修生は、修士（政策研究）の学位が授与されます。

《国際交流基金主催「外交官・公務員日本語研修」研修員ご来訪》



4月12日、国際交流基金主催の「外交官・公務員日本語研修」研修員の一行が、防衛研究所を訪問しました。本研修は、業務上日本語の習得を必要とする各国の若手外交官及び公務員を対象とし、8か月間日本に招へいすることで、日本語及び日本理解のための研修を行うものです。防衛研究所においては、防衛研究所の概要ならびに地域情勢等のブリーフィングおよび質疑応答を実施しました。

《米国家戦略大学（National War College: NWC）研修団ご来訪》



4月6日、米国家戦略大学（National War College: NWC）研修団が防衛研究所を訪問しました。NWCと防衛研究所との交流は長い歴史を有し、1956年以降、研修団の訪問は40回を超えており、日米関係の基盤の強化に貢献しています。今回の訪問では、防衛研究所より『中国安全保障レポート』に関するブリーフィングを行う等、日米間の対話と認識の共有の重要性が確認されました。

《アラブ首長国連邦（UAE）シャルジャ公文書館長ご来訪》

4月28日、アラブ首長国連邦（UAE）シャルジャ公文書館長一行が戦史研究センターを訪問しました。シャルジャ首長国は、UAEを構成する首長国の一つであり、今回の来訪は、創設6年を迎えるシャルジャ公文書館より、日本における先進的な公文書の保管について知見を得たいとの希望を受け実現しました。庄司戦史研究センター長および柴田戦史研究センター史料室長より、防衛研究所の概要についてブリーフィングを行った後、一行は戦史研究センター史料室を視察しました。その後に実施された質疑応答においては、世界的にも重要な史料を精密に管理する日本の戦史研究センターの取り組みの重要性が確認されるとともに、両機関の特長を踏まえた公文書の管理や公開を含めた課題の共有がなされました。



《第63期一般課程》

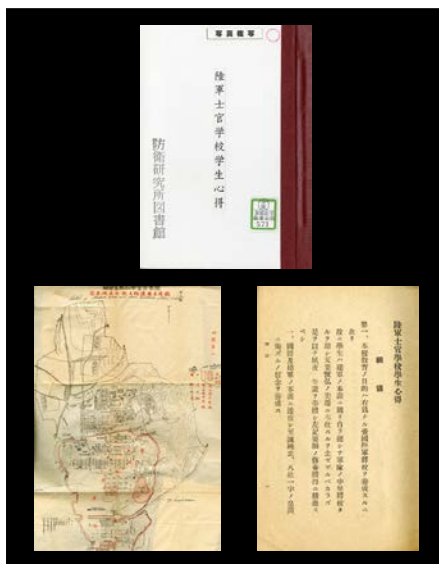
第63期一般課程において、4月は、「科学技術と安全保障」、「社会の安全と危機管理」、「近代日本の軍事史」、「日本の防衛」、「サイバーと安全保障（准講座）」の各講座及び11個のセミナーを実施しました。さらに、政策シミュレーションの一環として、信田智人国際大学国際関係学研究科教授による「日本の政策決定」と題した講義、また、特別講義として、田中伸男公益財団法人笹川平和財団理事長による「エネルギー情勢」と題した講義を実施しました。

25日からは第4学期が始まり、講座「日本の防衛」を開講しました。また、「テロ対策の諸問題」、「米国の国防と外交」、「南アジアの安全保障」、「戦略策定法（後段）」、「再考 太平洋戦争への道（後段）」及び「紛争処理の将来」をテーマとした6セミナーを開講しました。第4学期はさらに、一般課程研修員の研究成果を発表する研究論文発表会、および同盟国や安全保障上の利益を共有する関係国7か国を4個グループに分けて研修する国外現地研修を実施します。

・・・・・・「史料紹介コーナー」・・・・・・

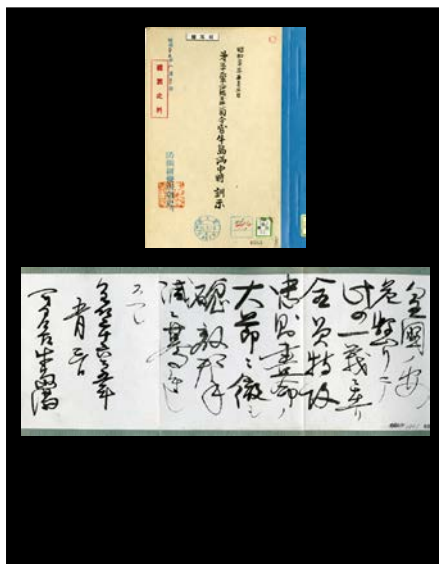
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{うしじま} ^{みつる} 牛島 満 1887～1945年 》
 一鹿児島県出身の陸軍大將一



陸軍士官学校学生心得（登録番号：中央-軍隊教育教育史料-571）

牛島満大將は、明治41年5月、陸軍士官学校（20期）を卒業後、歩兵第36旅団長として支那事変に従軍、武漢攻略戦などに参加したのち、陸軍予科士官学校校長兼陸軍戸山学校校長、第11師団長、陸軍公主嶺学校校長の要職を経て、昭和17年4月1日、陸軍士官学校校長に就任します。陸士校長を2年4か月ほど務めますが、その間の昭和18年12月1日、「陸軍士官学校学生心得」を定めています。本心得は、兵科少尉候補者（己種学生）及び特別志願将校（丁種学生）が在校間遵守すべき事項を規定したもので、「学生ハ建軍ノ本義ニ則リ自ラ挺シテ軍隊ノ中堅將校タルヲ期シ」、堅確なる軍人精神の鍛練、高潔なる品性の陶冶、強健なる身体の鍛練などの修得に精進するよう求めています。巻末には、座間の陸軍士官学校配置要図も添付されています。



第32軍司令官牛島満中将訓示（登録番号：沖台-沖縄-54）

昭和20年4月1日、猛烈な艦砲射撃のあと沖縄本島中部西海岸へ上陸を開始した米軍は、4月5日から全線にわたって攻撃を開始します。陸士校長から沖縄の第32軍司令官に就任した牛島中将（昭和19年8月8日付）は、陸海軍の航空部隊による総攻撃と戦艦大和をはじめとする海上部隊主力をもってする海上特攻に呼応して反撃を繰り返しますが、失敗に終わります。米軍上陸から一か月後の5月3日、牛島中将は、5月4日早朝からの総反撃を決心します。この史料は、第32軍最後の総反撃にあたり、牛島軍司令官が各部隊長に与えた訓示を長勇総参謀長が筆記した「第三十二軍司令官牛島満中将訓示」で、「皇国ノ安危懸リテ此ノ一戦ニ在リ全員特攻忠則盡命ノ大節ニ徹シ醜敵撃滅ニ驀進スヘシ」と記されています（他に、「第三十二軍司令部 日々命令綴」登録番号：沖台-沖縄-41）。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>